

# 公庫、ワイズに融資

## 淡水化海外事業へ2000万円

沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）は30日、海水淡水化装置を開発・販売するワイズグローバルビジョン（うるま市、柳瀬良奎社長）に対し、無担保無保証で自己資本とみなすことができる資本性ローンを適用し、2千万円を融資したと発表した。

ワイズ社は2012年にパツテリー式の小型海水淡水化装置を開発。海水をナノレベルでろ過できるフィルターにより、塩分に加えウイルス、病原菌の除去も可能で、漁業養殖業者へ販売してきた。

今春には重量25kgのトランク型と重量150kgのミニプラント装置も開発した。トラ

ンク型は1時間で海水40リットルを、ミニプラントは同じく最大1・5リットルを淡水化できる。今年7月からはフィリピンで飲料水販売事業を開始。水道環境の悪い東南アジアの島しょ国をターゲットに、3年間で100カ所の飲料水販売所「MYZ（水）ステーション」を設置する計画だ。販売所では現地ですぐ約60円の水を同5円で販売している。

今回の融資は海外展開を本格化させるため、材料の仕入れや設備投資資金に充てる。30日、那覇市の沖縄公庫本店で会見した柳瀬社長は「水の『スモールインフラ』の構築事業。世界中の水問題を個人レベルで解決できるようにしたい」と意欲を話した。

# 海水を淡水化 世界向け展開

## ワイズ、東南ア中心に

持ち運びが可能な浄水器などの製造・販売を手掛けているワイズグローバルビジョン（うるま市、柳瀬良奎社長）は、沖縄振興開発金融公庫から資本性ローン2千万円の融資を受け、水道環境の悪い東南アジアを中心に海外展開を本格化させる。柳瀬社長は「自社の

製品を通じて、インフラが整っていないアジアの水問題を解決する」と展望を語った。

同社が開発した主力商品の小型海水淡水化装置「オーシャンピュア」は1時間に40リットルの海水を淡水化でき、現在、国内のほかフィリピンやインドネシアなどで販売している。

今後3年間で飲料水販売所「MYZ（水）ステーション」を海外300カ所に設置する計画を立てている。

同社の淡水化装置は海水をナノレベルで濾過する「逆浸透膜」フィルターを使うことで、塩分濃度0%かつ、ウイルスや病原菌がない真水をつくることができ、県内でも漁船などに使用されている。